

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1277500060		
法人名	有限会社 吾亦紅		
事業所名	グループホームわれも紅		
所在地	千葉県いすみ市日在1239		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com.kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPO共生		
所在地	千葉県柏市光ヶ丘団地3-3-404		
訪問調査日	平成24年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

重度の利用者が多く、ホーム内での生活の中で行事を主とし、職員が自宅から花を持ち寄り、季節感を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の共有と実践について、事業所では年月の経過に伴い利用者の状況に変化が見られるが、個々が地域と触れ合うことを大切にしている。また職員はその状況に対応し、「家庭的で親しみのある共同生活を送れるよう」日々澁刺とした支援に取り組んでいる。
事業所と地域とのつきあいについて、利用者は散歩の途中で菊のハウスや酒屋さんのランの花に見入って、人々と挨拶を交わしたり、いも掘りに誘われるなどしている。
また震災時には事業所へ近隣住人が駆けつけてくれるなど、地域活動を通しての連帯意識に高まりが見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方々との交流を通して実践につなげている。	年月の経過に伴い利用者の状況に変化が見られるが、個々が地域と触れ合うことを大切にしている。また職員はその状況に対応し、「家庭的で親しみのある共同生活を送れるよう」日々澆刺とした支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや、季節に応じた野菜やお花を戴いたり、新米、お餅、お供えを戴くなど、戴くばかりでなく、てつくりのもののお返しをするなど、良好な関係維持に努めている。	散歩の途中で菊のハウスや酒屋さんのランの花に見入って、人々と挨拶を交わしたり、いも掘りの誘いもある。また震災時には近隣住人が駆けつけてくれるなど、地域活動を通しての連帯意識に高まりが見られる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々と共に楽しむ行事を利用者の方々と大切にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近隣の方々との日常的な繋がりがあり、行政担当者の来所日はウイークデイ、ご家族の来所日が祝祭日が多く、基本的に開催が困難である。ご家族や町内会に合わせた来所を希望する。	事業所の開催可能日と、市の担当、民生委員等の出席可能日が噛み合わず、今年度の会議は開催されていない。事業所では改めて日祭日の開催方針及び年間計画を関係者に説明して理解を得る意向を示している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明なこと、心配なこと等に対しては積極的に相談に応じ、対応している。	事業所での課題は包括支援センター、介護保険課及びふれあい会館に出向き、担当者の意見を訊くとともに解決に当たり協力を得ている。また集団指導の機会などでも意見交換をし、協力関係を築く取組を進めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修への参加や、一人ひとりにあつた対応、拘束をしない工夫に努めている。	県が行う基礎研修は職員全員が進んで受講するように努力している。また介護支援専門員や介護福祉士の資格取得を奨励し成果を上げるなど、職員の質を高める取組がなされている。事業所では難しい対応を迫られる場面もあるが、拘束を排除する取組を進めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者から怪我をさせられることは度々あるが、こちらからは絶対にありえない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	6名のうちの4名の利用者が後見制度を利用しており、始められるご家族にも、資料を渡すなどの状況にあった支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明の終了後、同意書を頂き、十分にご理解を戴けるよう、努力をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見は十分に聞き取るようにしている。 利用者については意思の疎通が図れない方もいるため不十分であり、外部者へ表わす面では、誰にどのように表わすのか、理解できていない。	事業所は日々の生活の中で利用者の意見や要望を聴き取り、運営に反映している。また地域に住む家族だけではなく遠方に住む家族にも来訪願いや、状況を理解した上での意見や要望を聞き、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフからの情報は重要であり、十分に聞き入れている。	職員は事業所の方針を理解し、管理者とは良好なコミュニケーションが図れる関係が築かれている。管理者は申し送り時や日々の業務の中で意見や提案を聞き、それらを事業所の運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全てを把握しているスタッフには、十分でないスタッフを組み合わせるなど、給料についても実績を十分に取り入れている。休日出勤や残業はさせていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に新人研修には力を入れている。資格取得の援助も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	デイサービス事業所の行事に参加したり、全ての研修に参加できなくとも、出来る限り参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一方的にならず、少しずつ本人の状況を理解し、関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最大限、ご家族の話を聞き、要望悩み等を聞き、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。過去には他のデイサービスを利用したこともあった。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々にあった残存機能を生かし、出来ることは援助しながら一緒に行う努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に得られる努力は、一緒行っていたいたり、少しでもご家族と本人がゆっくり過ごせるよう、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅周辺へのドライブや、行商を行っていた方には、直売所に行ったり、行商仲間と会うこともある。	家族の来訪や行商時代の知人と触れ合うなど馴染みの人との関係継続に努めている。また生家の前の通過、野菜の直売所巡り、舞踊の観賞、裸祭りの見物など、馴染みの場所や風物との関係継続にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立することがないよう支援に努め、性格の激しい方には出来る限りスタッフが寄り浴い、他者へのトラブルや不快な思いをさせないよう、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅へ帰られた方や、亡くなられたご家族等、何年たっても来所されたり、交流があるケースが多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	6名の利用者様の中で4名の方との意思の疎通が困難であるが、十分なケアの中で、せめて苦痛の無いように努めている。	現状は、これ以上の支援はない、と思われるほど澁刺としたマンパワー、利用者数を3名超える職員数など支援の質も手厚い。利用期間を越える熱い信頼と親しみが定着している様子が実感できる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際、ご家族から多くの情報を得る様に努めている。また問題は生じたときも、度々サービスの見直しに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノートを通じ、日々の過ごし方、バイタルチェックなど、全員が把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を行うなど、全員が参加できなくても度々行い、介護計画に反映させている。	職員総数・利用者数では職員総数が3名多いので、介護環境、介護計画、経過記録など、支援に必要な情報は全職員と家族ぐるみで共有されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	十分なスタッフとの体制に取り組み、柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所の畑で芋ほりをさせて頂いたり、散歩の途中、縁側でお茶を戴いたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特別な受診以外は、協力病院の医師と綿密な連絡を取り合い、支援している。	管理者が看護師であり、かかりつけ医との信頼関係もできている。利用者調査によれば家族は、【病院受診も連れて行ってもらえている】と感謝を記している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ほんの少しの変化でも気づきに努め、こまめなバイタルチェックに変化を見逃さないよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	細かな診療情報提供書やサマリーを通して行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前確認書を作成し、ご家族の終末期に対する意見を、書面で作成してある。	利用開始時に家族やご本人による書面合意が出来ている。事業所の素早い対応があるので、有難いと利用者調査に家族の記述がある。利用者に体力があれば入院しても事業所に帰り、その後は医師指示書による点滴で落着いている方もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	できる限り行っているが、地震、津波に関しては何処まで対応できるか、不安はある。	自然災害への対応は困難であるが、食糧の備蓄があれば困難はかなり乗り切れるといわれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の失敗等、本人に気づかれないよう、スタッフが暖かく対応している。	職員の有資格者率が高く、小規模ながらケアの水準は非常に高いと考えられる。個人尊重の方針を大切にしているので利用者は清潔で毅然とされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り行っているが、6名中4名は意志の疎通困難のため、2名の利用者には行えていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天候により、外出や散歩、クロスワード、塗り絵、野菜の下処理など行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪、顔そり、ツメの手入れなど行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ミキサー、刻み、常食と分かれている中、活かされていると思う。片付けも全員で行っている。	ミキサー食、刻み食などあるが、どれも丁寧に調理されている。特に汁物は具を軟らかく美味しく作っており、皆でとる汁物から栄養と滋養が体にしみこむようである。全てに心がこもっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ADL自立の方、経管栄養の方、それぞれに合ったカロリー、水分計算を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合った口腔ケアを、全員違う形で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便の時間と状態を十分チェックし、便失禁の無いよう、寝たきりの方でもポータブルトイレで行えるよう、支援している。	ほぼ、歩行困難者が多い中、便失禁を防ぎ寝たきりの利用者でもポータブルトイレが使えれば自立も真近に感じられ、意欲に繋がると思われる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックにて、下剤、浣腸にて行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	行えていない。重度化しているため、4人のスタッフがいないと入浴が行えない。しかし週2回の入浴は行っている。	重度化している利用者が多い事業所であり、画一的な設間にそぐわない現状がある。しかしその中で、必要な洗浄等はきちんとされ、清潔で快適なサービスが提供されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後等は、自室へ行くと眠れないが、居間でのうたた寝が皆様気に入っている様子。静かに見守っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	血圧、血糖の薬等、十分に行えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒に献立を考えたり、その方に合った出来ることを、一緒に行うなどしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出が可能な方に対しては、十分に行えている。	車椅子を利用し、天候などを見定めながら可能な限り外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は所持していないため、行われていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行っている。特に電話等は活用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や行事用の装飾など、活用している。地震発生以来、廊下のみ節電している。	かつての民宿の再利用であり、主として南面が居室、反対側が風呂やトイレ、流しなどがあり、磨かれた廊下の両サイドは使い勝手の良い住まいとして生き生きと機能している。高齢者はこのような家の景色を好むだろうと、改めて感づかされる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室にて過ごされたい方は自室でテレビを見るなど、昼間、食堂を自由に使っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々にあった工夫をしている。	その方の住まいやすいよう、それまでの暮らしを最大限尊重する姿勢で居室内の整理とその方に寄りそう支援が行われている気配がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫し、行われている。		